

第 13 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 1. 14 空田 さやか

サノフィ(株)

『持効型溶解インスリンアナログ製剤/ランタス XR GLP-1 受容体作動薬/リクスミア』

サノフィ(株) 金田さん

場所:コンパス薬局

参加者: 内科 沢先生、内科職員さん、松下さゆり、熊山ともみ、空田さやか

既存の持効型溶解インスリンアナログであるランタス注ソロスター (300 単位/3mL) をさらに改善し、安定した作用持続性を示すランタスXR注ソロスター (450 単位/1.5mL) が近年発売された。また、国内 4 剤目の GLP-1 受容体作動薬で、基礎インスリンとの併用が可能な点が大きな特徴であるリクスミアについて紹介する。

●ランタス XR●

〈効果・効能〉

1、2 型糖尿病

〈用法〉

1 日 1 回、毎日定時刻であればいつでも可

〈特徴〉

- ・ランタスXRはランタスの濃度を 3 倍に濃縮したことにより表面積の小さい沈殿物を生じ、溶解速度の低下につれ安定した作用維持が可能
- ・ピークがランタスよりも小さいので低血糖をきたしにくい
- ・体重増加もきたしにくい
- ・他の基礎インスリンからの切り替え用量は、1 日 1 回の投与量を同量
- ・デバイス

ランタスよりも高い注入精度、注入の押し込みに要する力を低減

〈副作用〉

低血糖、不眠

●リクスミア●

〈効能・効果〉

2型糖尿病

〈用法〉

1日1回朝食前

単剤投与不可

- ・食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤（ビグアナイド系薬剤との併用を含む）を使用
- ・食事療法、運動療法に加えて持効型溶解インスリンまたは中間型インスリン製剤（スルホニルウレア剤との併用を含む）を使用

〈特徴〉

胃内容物排出抑制作用も併せもち、食後の高血糖を防ぐ

〈副作用〉

低血糖、悪心、腹部膨満感

〈考察〉

持続型インスリン製剤は夜間低血糖など意識的に防ぎきれない副作用があるが、ランタスXRはそういった低血糖で困っている患者さんにとって新たな希望と言える。ただし、低血糖のリスクは減ったとはいえゼロではないので、シックデイ時の低血糖や夜間低血糖については引き続き来局ごとに確認していく必要がある。

リクスミアについては、胃内容物排出抑制作用のために起こる悪心や腹部膨満感のため中断のリスクがあるが、徐々に用量を増やしていくことで“慣らす”ことができる旨、また暴飲暴食をしないことである程度予防でき体重増加も防げる旨お伝えしていきたい。